

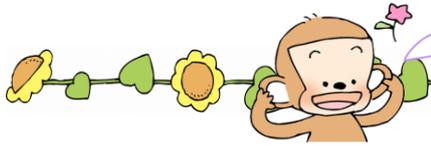


# みみだより No.37

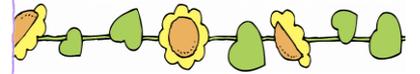
鳥取聾学校ひまわり分校 聴能担当 R4.7.21

文責：松本

さあ、もうすぐ夏休みです！！今年もいつも通りの夏休みとはいかないかもしれませんが、「夏ならではの〇〇」を楽しんでください。



## きこえにくい子どもの 気持ちを想像すること



6月の職員研修で「きこえにくいことの疑似体験」を行いました。どのようにしたかという・・・。

- ① 3～4人一組になります。
- ② その中の1人が、耳栓と「ザー」という音が流れるヘッドホンをつけます。  
(65dB～70dBの難聴の状態。)
- ③ みんなで、出されたテーマについて話し合います。  
☞ 【1回目】身振りなどを交えないで音声のみで話をします。
- ④ 再び、みんなで、出されたテーマについて話し合います。  
☞ 【2回目】きこえにくい状態にある人にわかるように話をします。

今回のテーマは、「行きたいのは、USJ?東京ディズニーランド?」等々です。

### ○身振りなどを交えない時・・・ (今回はマスクもつけていました。)

- ・仲間に入れず、さみしさを感じた。ニコニコ笑顔でいるしかなかった。
- ・その場から逃げだしたい気持ちで、悲しくつらかった。
- ・会話が全くわからず、すぐに涙が出そうだった。
- ・不安になり、そして、あせった。
- ・わからないので、話をきこうという意欲がなくなった。



ここでは、マイナスの感想がたくさんありました。はじめはわかろうと頑張るのだが、わからない状況が続くと、不安になり最後はあきらめてしまう・・・これが「心理的バリア」ではないでしょうか。

### ○きこえにくい状態にある人にわかるように話をしたとき・・・

- ・口の動きやジェスチャーがあると話の内容がわかり、参加しやすかった。安心した。
- ・見てわかることば(手話、指文字、文字、ジェスチャー等)が  
いかに大切か改めて感じた。
- ・手話や筆談があると話していることがわかり、自分も会話に参加  
できていることが嬉しくなった。

ここでは、「話がわかる」喜びと「ここに居ていいんだ」という自己肯定感が感じられました。

そして、子ども達のことや日々の生活や学習について振り返り、「今後～のようにしていきたい！」という前向きな話がたくさん出ました。



### ワンポイント 手話 「鳥取」



みぎて おやび ひと おび の ぐち お  
右手の親指と人さし指を伸ばし、口もとに置き、2～  
3回指先をくっつけます。

「鳥取県手話ハンドブック」より



以前から「疑似体験」に取り組んでおられる、前松江ろう学校校長福島朗博先生のことばです。

「きこえない子どもの気持ちを常に想像しながら子育てをしてほしい」

「聴覚障害 Vol.77」より